



トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 10 「雪が少ない白糠の冬」

この原稿を書いているのは2月2日。私にとつては白糠で過ごす3回目の冬の真っ只中を迎えています。

白糠の冬の特徴と云えば、雪が少ないこと。ロシアの方から北海道へ来る湿った空気が大雪山系の山々にぶつかること、太平洋側へ移動する前に雪を落とし切ってしまうのが理由の一つだそうです。さすが「北海道の屋根」と呼ばれる大雪山です。



雪が少ない1月下旬の恋問海岸



器用に種を食べるシメ

雪が少ないと・・・

雪が少ないことは、生き物たちにとってどんな影響があるのでしょうか。

雪が深ければ、その下は外気温ほど温度が下がらず、天敵にも見つけにくいいため、トガリネズミなどの小動物にとって格好のすみかです。その雪が今シーズンには特に少ない印象の恋問

海岸。残念ながら今年に入ってからトガリネズミを全く発見できていません。いったいどこへ行ってしまったのか・・・どこかで元気に過ごしていて、夏にまたたくさん会えるのを楽しみにするのかなさそうです。

1枚目の写真は、日没間近くに撮影した恋問海岸の夕景です。北海道の冬らしくない景色でも、トガリネズミが見つからなくて

も、美しいなあと思いつながら太陽が見えなくなるまで眺めてしまっています。

器用なシメに釘付け

雪が少ないことが好都合な生き物もいます。それはシメという小鳥。地面で植物の種を食べていました。おそらくこのような植物は例年なら雪に埋もれて

しまっているでしょう。

「よかったねえ」と眺めていて驚いたのが、その食べ方。えんどう豆のサヤのようなものをくわえ、クチバシでかんでいると・・・なんとサヤの中に入っているいくつもの種が、まるで意志を持ってたかのように次々と出てきて、シメの口の中へ吸い込まれていっているように見えるのです。何度見ても不思議な光景でした。

白糠ではシメは道路脇の草むらなど、私たちの身近な場所でもよく見かける小鳥です。みなさんもぜひシメを見つけて観察してみてください。

PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。E-mail rokuta@six-h.com

